dCS

Rossini

Upsampling CD/ SACD Transport

Software Release 1.0x

取扱説明書

株式会社 太陽インターナショナル
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイスビル 1F
Tel: 03-6225-2777 Fax: 03-6225-2778
<URL> http : // www.taiyoinc.jp

目次

初めて *dCS* Rossini Transport を使う.....4

梱包の中身.....4

本機の設置.....4

安全のために.....5

演奏可能なディスク.....6

演奏できないディスク.....6

セットアップガイド.....7

STEP1　デジタル出力の接続.....8

STEP2　シンクロモードを選択.....10

STEP3　ディスクを演奏する.....21

フロントパネル.....15

ディスプレイ.....16

リアパネル.....18

AES デジタル出力.....18

SPDIFデジタル出力/Word ワードクロック入出力.....18

IR (赤外)リモートレシーバー.....18

RS232インターフェイス.....18

AC入力/ラベル.....18

メニュー 20

メニューを使う 21

INFORMATIONメニュー 22

TRANSPORT設定メニュー 23

CONFIGURATIONメニュー 24

ディスプレイ設定メニュー 25

GENERATORメニュー 25

Specification 27

保守サポート 28

ソフトウエア 29

初めて *dCS* Rossini Transportを使う

本機をご使用になる前に、この項とセットアップガイドをお読み下さい。安全に、効率よくあなたのハイファイシステムに組み入れることが出来るでしょう。

必要に応じて *dCS* はアップデートソフトを CD に焼いてお届けします。当社のホームページに案内を掲載しますので、新しいアップデート用 CD をご希望の方はシリアル番号と送付先をご連絡下さい。直ちに発送いたします。

梱包の中身

- Rossini Transport
- 取扱説明書
- パワーコード
- AES/EBU ケーブル
- BNC ケーブル
- スペアフューズ 2
- リモートコントローラーとバッテリー

梱包されるべき付属品が入っていない場合にはすぐに販売店にご連絡下さい。将来、ご使用になるかもしれませんので、梱包材はお手元に保管なさることをおすすめします。なお、保管されない場合でも、梱包材は有償でご提供いたします。

Rossini Transport はを使用する前に、設定基準ガイドをお読みください。正しい設定への近道であり、あなたのオーディオシステムに導入した場合にご満足いただけるものと信じます。

本機の設置

条件が伴わない場合には Rossini を積み重ねて使用することは可能ですが、Rossini は各ユニットを共振のないしっかりとしたベースか棚板に設置することによって最高の能力を発揮します。ユニットが無理なく配線できるように設置位置を決めて下さい。また、放熱のため、ユニットの周囲に 3～5cm 程度の余裕をとっておくとよいでしょう。

脚部は水平になるように出荷時に調整されていますが、システムなどの関係で再度調整が必要な場合には3点支持として調整して下さい。3mm の高さ調整が可能です。

安全のために

Rossini は *dCS*、その代理店以外では調整できる箇所はございませんので、シャーシを開けないように。内部には高圧電流が流れている箇所もあります。万一ユニットが正しく作動しないときにはすぐに販売店経由当社にお送り下さい。

本機は無鉛パーツ、半田を使用しており、RoHS 規格に添って製造されております。

パワーコードをつないで電機を入れる前に、適正電圧をお確かめ下さい。シリアル番号ラベルに適切な電圧が表示されております。また、代理店においてPSE 安全基準に則り、検査済ですので、電圧は 100v 50/60Hz でご使用いただけます。それ以外の電圧ではご使用にならないようにお願いいたします。異なる電圧で駆動した場合には、本機を損傷する恐れがあります。電圧をリセットなさらないようにお願いいたします。

dCS は電源ジェネレーターなど、電力会社以外の電源またはパワーコンディショナーをご使用になったことによる損傷は保証いたしかねます。ご注意下さい。

発電装置、パワーコンディショナーなどをご使用し、それが原因となって故障、不具合が発生した場合には、保証の対象外となりますので、ご注意をお願いいたします。

演奏可能なディスク

一般に市販されている CD は次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- 12cm ,8cm discs
- リニア PCM デジタルオーディオデータで録音されているもの
- CD ロゴの表示があり、レッドブック規格で作成されたもの

一般に市販されている SACD は次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- 12cm ,8cm discs
- SACD 層が DSD デジタルオーディオデータによる録音のもの
- SACD ロゴの表示があり、スカーレットブック規格で録音、製造されたもの

CD-R

CD-RW

CD フォーマットで記録された CD-R 、 CD-RW ディスクは演奏ができることがありますが、演奏はディスク、ソフトウェア、バーナーなどの条件によります。同様に、DD-R ディスクで SACD イメージが焼かれている場合には、演奏ができることがあります。但し、それらの演奏に対しての、責任は負いかねます、また、それによって不具合が生じたり、困難な事態に遭遇した場合にも、*dCS*、及び当社は責任は負いません。 ご注意ください。

演奏できないディスク

以下のディスクを演奏した場合の事故、不具合についてはメーカーである *dCS*、及び当社は責任は負いません。

- 傷、損傷、汚れたディスク。
- 円形以外のディスク(正方形、ハート型など)
- CD-R と表記されているもの、接着剤や粘着性の溶剤などが付着しているディスク。

接着剤や汚れのひどいディスクはターンテーブルに張り付いてしまいかねません。このような状況になったら、ディスクを取り出す必要があり、ディスクによる損傷やそのためのサービス費用が発生することをご了承下さい。また、ディスク自体に対する損傷の保証はいたしかねます。

- DVD, CD-G, CD-EXTRA, PHOTO CD, CD-ROM , DVD-ROM.
- CD フォーマット以外のフォーマットで録音されたデジタルディスク。(FLAC or WAV ファイルなど).
- レッドブック規格外のコピーガード CD は、正常に演奏できないか、全く演奏ができない場合があります。これらはデジタルデータを記録した光学ディスクであり、CD とは定義されません。本来 CD ロゴを付けるべきではない商品ですが、ついているディスクも散見されます。このようなディスクで演奏に問題が起こった場合にはディスクメーカーに問い合わせ、純粋な CD に交換してください。

セットアップガイド

この項は基本的な動作を行うためのセットアップガイドです。

最初に

メニュー・セットアップガイドシートはメニューツリーを表示し、一般的なセットアップをご説明します。

デジタル接続を行いますので、デジタル用のケーブルをご使用下さい。

- AES/EBU のケーブルはインピーダンスが 110Ω の専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- クロック、SPDIF SPDIF BNC のケーブルにはインピーダンスが 75Ω の専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。

SDIF,クロック用に使用するケーブルはシンプルな DC カップルド接続のインターフェイスケーブルが必要です。市場にはコンデンサーを介在させたケーブル、ネットワークがビルトインされたケーブルなどがありますが、このようなケーブルをご使用になりますと、誤動作や、場合によっては全く動作をしないことが報告されております。ご注意下さい。

- SPDIF 接続 RCA ケーブルにはインピーダンスが 75Ω の専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- トスリンク にはトスリンク用のファイバー光ケーブルを使用します。
- トランスポート リアパネルの AC 入力に AC コードを接続します。

コネクターを破壊する恐れのあるような重量のあるケーブル、もしくは非常に硬く柔軟性のないケーブルなどの使用はお控え下さい。

付属のケーブル類は一般のケーブルです。オーディオ用のケーブルをご使用になるユーザーの方が多く見受けられます。

Power (パワー)ボタンを押します。ディスプレィは **ROSSINI TRANSPORT** と表示します。30 秒ほどの間に Transport は自身の診断を終えます。

もし本機が通常ではない状態にセットしてしまった場合には、出荷時のデフォルトモード**(Factory Reset)**に戻します。次の順番でボタンを押し、数秒そのまま待つとリセットされます。

Menu, ►, ►, Menu, ◄, ◄, Menu.

STEP 1　デジタル出力の接続

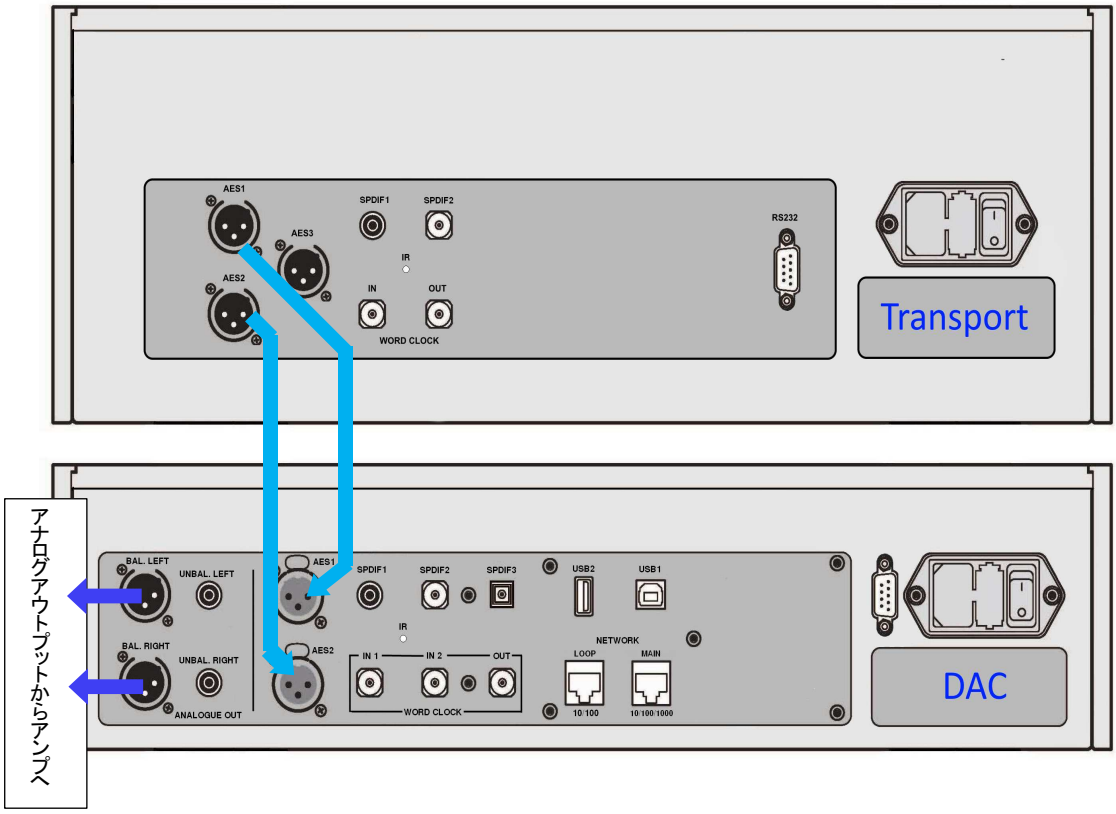
CD、SACDの演奏には、**AES1+2**インターフェィスによってDSD 信号が伝送され、PCM出力は16/44.1PCMデータが伝送されます。CD の演奏についても、**DSD** にアップサンプルする場合には、メニューページで行い、**AES1+2** によって出力します。
AES1+2 のみを使用するのが一般的なのですが、ネィティブ 16/44.1 データで PCM 出力をお好みの方もいらっしゃいます。

デュアル AES ソースとの接続

RossiniDAC をご使用の場合は、**AES1+2** がメイン出力となります。

- ソース機器がデュアル AES 対応であることを確認します。
- トランスポートの **AES1** 出力を RossiniDAC の AES1 入力、**AES2** 出力を DAC の AES2 入力と接続。ケーブルの出力と入力をスワップさせないように注意。
- DAC の入力ボタンでディスプレィに **AES 1+2** と表示されるまで入力ボタンを何回か押します。

DAC がソースにロックした状態。ディスプレィはオーディオ同期アイコンと DSD です。



AES3 または SPDIF 出力を接続する

- 適切なケーブルでトランスポートの出力と、同じターミナル端子の DAC 入力を接続。
- DAC 入力ボタンを選択した入力が表示されるまで何回か押します。表示は、AES1, AES2, AES3, AES4, SPDIF,1, SPDIF2, SPDIF3, (BNC), トスリンクです。

DAC はソース機器とロックし、Audio Sync アイコンと 0/44.1 と表示します。

DAC が 0/44.1 と表示したらどこかおかしいのでしょうか？

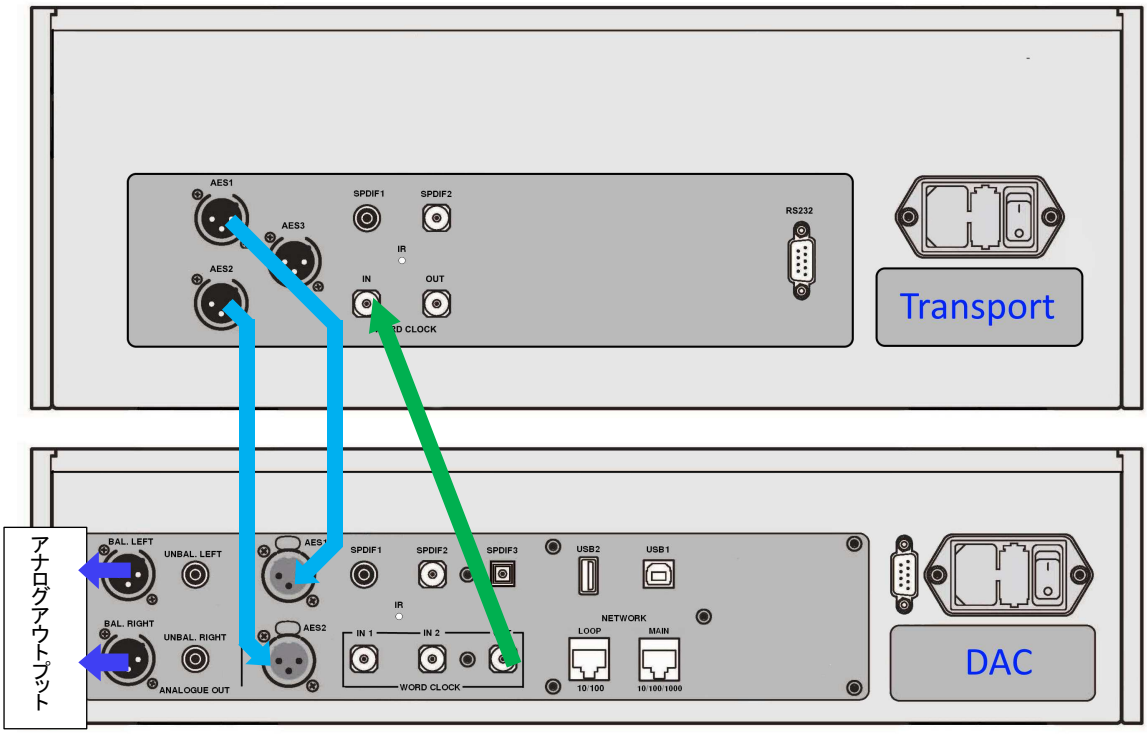
問題在りません。CD が挿入され、演奏が行われていない状態では 44.1kS/s のキャリア信号は伝達されていますが、データは伝達されていません。―デジタルサイレンスです。DAC は、ディスクが演奏されるまで、アクティブデータビットが 0 と正しく判断しています。演奏すると、DAC は 16 アクティブビットを検出し、ディスプレィにその通り表示します。ディスクによっては、トラック間の無信号状態の時にも 0/44.1 と表示されることもあります。

STEP 2　シンクロモードを選択

この段階ではソースによるクロックで機器が動作している状態です。これは単純な方法ですが、ジッターなどを考慮すると最善とは言えません。

DAC をマスターモードにする（Rossini　クロックをご使用の場合は次のページへ。）

以下の様に接続し、RossiniDAC をマスターに、トランスポートをスレーブモードにすることでジッターを減少させることが出来ます。



- DAC **Input** ボタンでご使用になる入力を選択。(例：**AES1+2** など)
- DAC の **Word Clock Out** と、トランスポートの **Word Clock In** を接続します。

DAC 設定の同期モードメニューからマスターモードに設定します。

トランスポートはワードクロックにロックしてこのアイコンが表示されます。

Using a Master Clock

以下のように Rossini クロックを追加することによってパフォーマンスは向上します。

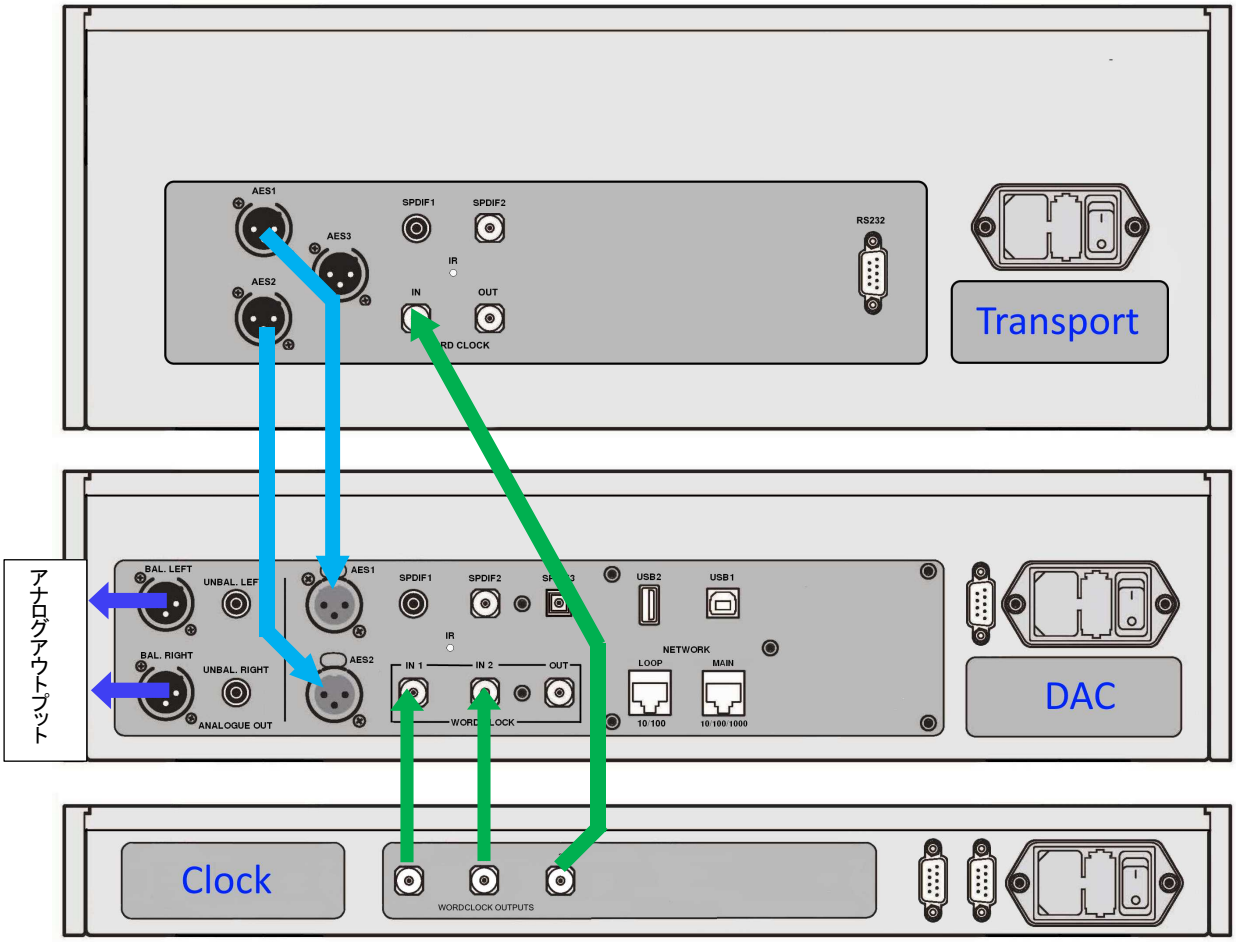


Figure 1 – Using the ***Rossini*** Transport, DAC and Clock together

- DAC の **Input** ボタンによって、使用する入力を選択。(**AES1+2** など)
- クロックの Word clock **Output 1** と DAC の Word Clock In 1(ワードクロック入力)を結線する。
- クロックの Word clock **Output 3** とトランスポートの Word Clock In(ワードクロック入力)を結線する。

トランスポートはワードクロックにロックし、ディスプレィにはこのアイコンが表示されます。

DAC の **Settings > Sync Mode** メニューページから **Word Clock In1** を設定して、システムを再ロックさせます。

バッドクロックアイコンはトランスポートが 44.1,、88.2、176.4kHz 以外の周波数を受けており、ロックができない状態を示しています。

- DAC にトランスポート以外のソースからの入力を使用する場合は、クロックの **Output 2** と DAC の **Word Clock In2** とを接続します。
- クロックが機械的に他のユニットと隔離されていることを確認します。特にトランスポートと機械的に隔離されていることが重要です。

STEP 3 – ディスクを演奏する

- **Stop/Eject** ボタンを押す。

ディスプレィは **OPEN** と表示。

- ラベルを上にしてディスクをトライに載せて、Stop/Eject ボタンを押す。

ディスプレィは CLOSE、**LOADING** と表示します。ディスクのタイプが識別され、CD または SACD のロゴがトラック番号、層演奏時間がディスプレィに表示されます。トランスポートはデフォルト設定でハイブリッドディスクの SACD 層を演奏しますが、必要ならばレイヤー (**Layer**) ボタンによって変更できます。

- プレィ(**Play**) ボタンを押し演奏が始まります。ボリュームを調整します。全てのディスクでは、ディスクタイプと経過時間が表示されます。
- **Play/Pause** ボタンによって、一時停止と演奏が行えます。
- **Fwd, Rwd** ボタンで、次のトラックへ進んだり、前のトラックへ戻ります。
- **Fwd, Rwd** ボタンを押し続けることで、トラックをジョグできます。長く押し続ければ、スピードが速くなります。リモコンによる操作が便利です。
- **Stop/Eject** ボタンによって演奏を終了します。もう一度押すとトレイが開きます。

リモートトランスミッターには、トラック番号の選択、時間表示選択、トラックリピート、トラック順のプログラムなどの機能があります。

トラック順を 6-8 とプログラムするには、ディスクを停止させて、リモコンのプログラム (**Program**)ボタンを押します。トランスポートは **P00** と表示。一例として、6 または 06 と押すと、ディスプレィは **P01** と変わります。次に **8** または **08** 通すとディスプレィは **P02** と変更されます。この順番でディスクがスタートされます。リモートのプログラムボタンを押すことで、プログラムモードに入ったり、退出したりできます。Clear ボタンはプログラムモードをキャンセル、またはトレィを開きます。

演奏が終わったら、パワーボタン (**Power**)を軽く押すことで、システムをスリープモードにして、温めておくことが出来ます。パワーボタンを長く押し続けるとディスプレィに SWITCHING OFF と表示されて、パワーダウンします。

ディスク演奏をアプリによってコントロールする。

Rossini トランスポートの v1.00、RossiniPlayer, DAC v1.10、Rossini アプリ v1.4.8 にはアプリによる Rossini 機器のコントロールは用意されておりません。dCS としては、次の機会にアップデートを用意しようと準備をしております。ニュースの項目で発表いたしますので、当社のウェブサイトまたは dCS ウェブサイト www.dcsltd.co.uk を時折チェックしてください。

Rossini アプリを使用して RossiniDAC または Player 経由でトランスポートを制御することができます。

- デュアル AES でトランスポートに DAC/Player を接続します。
- RS232 ポート間に RS232 “null modem”ケーブルを利用して、DAC/Player をトランスポートに接続します

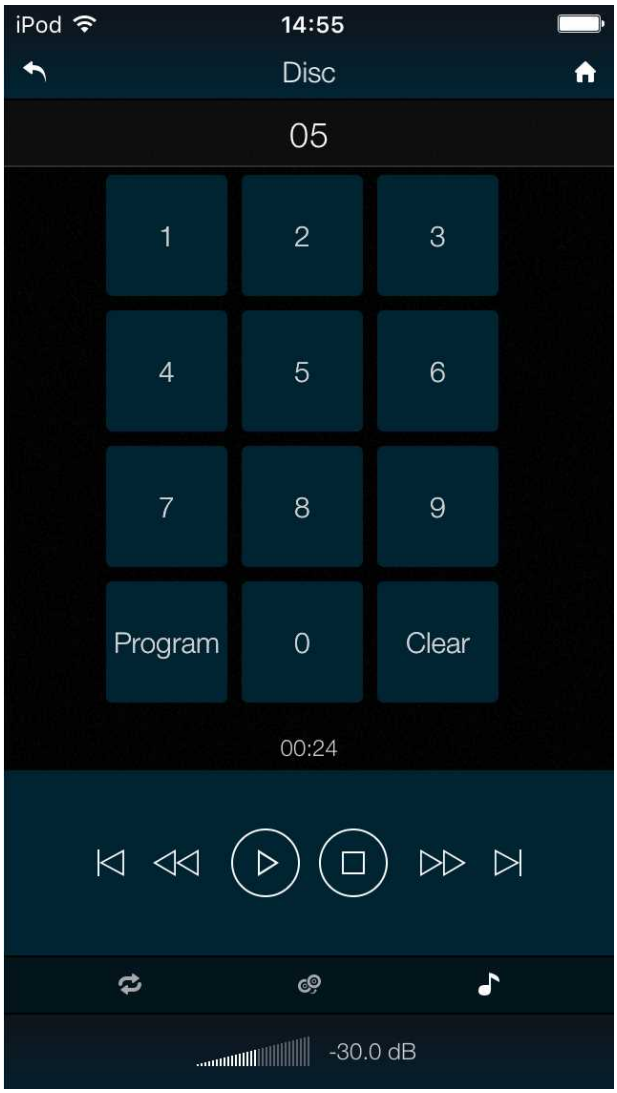
トランスポートと DAC・RossiniPlayer の RS232 モードを Binary に設定。

アプリのホームページに行き **Disc** をタップします。.

Rossini アプリは IR(赤外)リモートコントロールと同じ機能にアクセスします。

上記のように設定すると、トランスポートの IR レシーバは、Rossini DAC / Player のデュアル AES 入力が選択されている場合にのみアクティブになります。 これにより、コントロールの競合が防止されます。

トランスポートが Player・DAC に接続されている場合、アプリの **CD** ページはトランスポートの **Disc** ページによって置き換えられます。



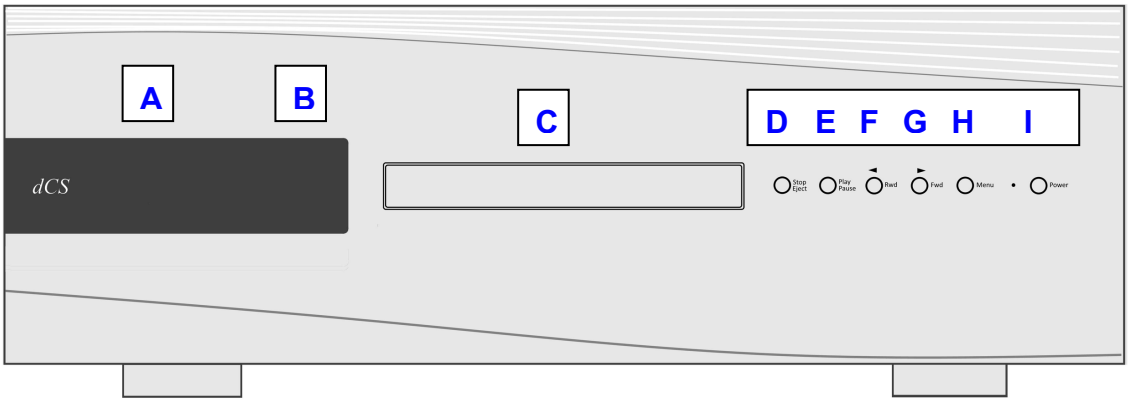
演奏の情報は Player・DAC のフロントパネルに表示されます。

さらなる提案

· DSD ではなく、CD を再生するときは、Settings > Upsampling Mode メニューページを変更して、Transport の AES1 + 2 出力で DXD データ(24/352.8)または DSDx2 (1/5.644M)にアップサンプルする設定ができます 。(p23 を参照)。

·AES1 + 2 出力のみを使用している場合は、PCM Enable メニューページを Off に設定してみてください(p23 ページを参照)。

フロントパネル



ディスプレィ

通常、ディスプレィは 4 つのエリアに分割されています。

1 ----------2----------

----------3----------

Area **1**: シンボルはメカニズムの状態を表示します。

Stop(停止)

Eject(イジェクト)

Play (演奏)

Pause (ポーズ)

Fast Forward(早送り)

Fast Reverse (早戻し)

Area **2**: プレィ、ポーズモードの時、現在のトラック番号、トラック/ディスク時間が表示されます。(時間、分、秒)

ストップの時には、総トラック数とディスクの総時間が表示されます。
トラック順序がプログラムされ、ディスクが停止されていると、**Pxx** が表示されます。例えば、 **P03** と表示された場合、トラック 3 の順番がプログラムされているという表示です。

Area **3**: ステータスアイコンがここに表示されます。

SACD loaded （SACD がロードされている）

CD loaded （CD がロードされている）

Locked to Word Clock input （ワードクロック入力がロックされている）

Wrong clock detected （同期できないクロックが接続されている）

Repeat the current track （今のトラックをリピート）

Repeat the whole disc （ディスク全体をリピート）

Settings are locked （設定がロックされている）

リモコンでトラックを選択すると、トラック番号が大文字で短く表示されます。

メニュー表示の詳細は、p21 のメニューセクションに示されています。

ディスプレイの消耗を避けるため、リスニングセッションの終了時には、電源を切るか、スリープモードに設定することをお勧めします。

リモートコントロールレシーバー

リモートコントロールをレシーバーB に向けると感度が最大となります

CD Tray

CD、SACD をトレィ(C)にセットするときは、ラベルの中央をセンターに置き、正しく装着されていることを確認してください。**Stop/Eject**(ストップ/イジェクト)ボタンを押すか、**Play(**演奏)ボタンを押すとトレィが閉じます。 トレィが自然に閉じるように、 無理に押し込んだりしないでください。を単独で閉じてください。無理に押し込まないでください。

Stop / Eject Button

Stop / Eject(ストップ・イジェクト)ボタン (D)を押すとディスク演奏は終了します。もう一度押すと CD トレィが開きます。更にもう一度押すと CD トレィは閉まります。

Play / Pause (プレィ・ポーズ) ボタン

ディスクが読み取られた後、**Play / Pause** (プレィ・ポーズ) ボタン (E) によって演奏開始をします。演奏後、もう一度押すとポーズになり、更にもう一度押すと演奏をします。

Rwd (巻き戻し)ボタン

ディスク演奏中に **Rwd** (巻き戻し)ボタン (F)を押すと前のトラックを選択し、ボタンを放すと演奏モードに戻ります。

メニューページが開いているときは **Rwd** ボタンは ◄ (戻るボタン) に変わり、メニューページを戻ります。

Fwd (早送り)ボタン

ディスク演奏中に **Fwd** (早送り)ボタン (G) を押すと次のトラックを選択し、ボタンを放すと演奏モードに戻ります。

メニューページが開いていると、**Fwd** (早送り)ボタンは ► (進む)ボタンに変わり、メニューページをめくります。

Menu (メニュー) ボタン

Menu (メニュー) ボタン(H)で、メニューが開きます。メニューページを選択し設定変更が出来ます。(メニュー機能を使用するに当たっては p21 を参照)

Power (パワー) ボタン

スイッチを入れるには、リアパネルのスイッチが I の位置にあって AC 電源が入っていることを確認して下さい。

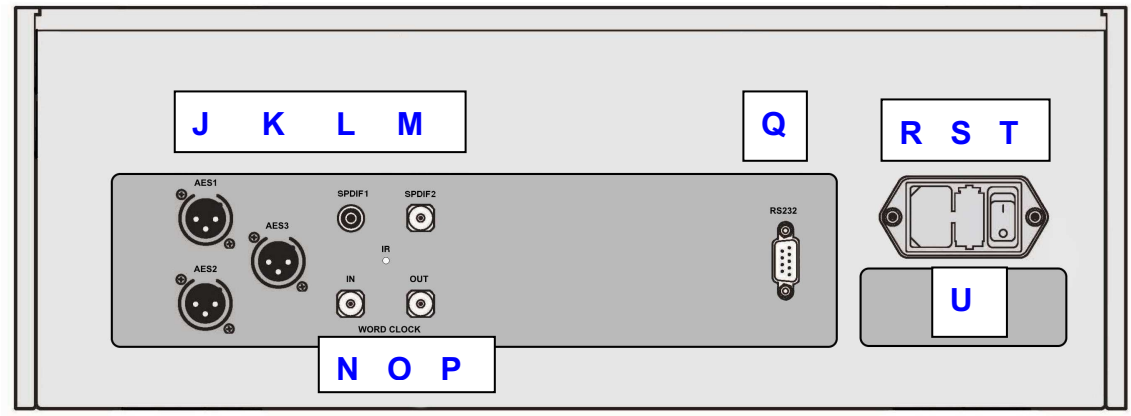
フロントパネルの **Power** (パワー)ボタン(I)を一度押すとスイッチが入ります。リモコンからは電源を入れることは出来ません。

ユニットをスリープモードにするには、パワーボタンを押します。ディスプレィは消えて、ボタンの横にある LED が点灯します。メカニズムは停止しますが、本機は作動状態に近い温度を保っています。通常の作動状態にするにはもう一度パワーボタンを押します。

完全にオフにするには **Power** (パワー) ボタンを **SWITCHING OFF** と表示されるまで約 5 秒間押し続けます。

メニューが開いているときには **Power** (パワー)でメニューを閉じることが出来ます。

リアパネル



AES デジタル出力

AES1, **AES2** 出力(J) はデュアル AES のペアです。SACD 演奏時には DSD データを送り出します。CD 演奏時には **DSD**（DoP フォーマットで）、**DXD** (24/352.8k) または **DSDx2** (1 bit at 5.644MS/s)、で送り出します。これは、**Setting>Upsample Mode** メニューページで設定します。**AES1+2** がメインの出力となります。

DSD、**DXD** 出力はヴィヴァルディーDAC, RossiniDAC, Rossini・Player、スカルラッティーDAC v1.30、パガニーニ DAC v1.30、ドビュッシーDAC v2.30 との互換性があります。dCs 暗号化された DSD モードは他社の製品との互換性は無いようです。 **DSDx2** 出力はヴィヴァルディーDAC v2.00 以降、RossiniDAC、RossiniPlayer、ドビュッシーDAC v2.30 との互換性があります。

AES3 (K) は CD/SACD 演奏時の 16/44.1 AES/EBU フォーマット出力。

SPDIF デジタル出力

2 つのコアキシャル SPDIF 出力があります。**SPDIF1** (L) は RCA, **SPDIF2** (M) は BNC で、CD、SACD 演奏時共、出力は 16/44.1 フォーマットです。

Word ワードクロック入出力

Word Clock In (ワードクロック入力, N)は 44.1, 88.2, 176.4 kHz の標準クロックをマスタークロック、またはマスターモードに設定された DAC から受け取ることが出来ます。

ユニットがクロックとロックされるとこのアイコンが表示されます。

Word Clock Out (ワードクロック出力, P) は 44.1KHZ のクロックを送り出します。
ワードクロックはデジタルデータを送りません、同期させるために使用されます。

IR (赤外)リモートレシーバー

この第二リモートレシーバー(O)は RS232 に代わるものとしてハウスオートメーションシステム用に設けられております。

RS232 interface

この RS232 インターフェイス(Q)には 2 つのモードがあり、メニューページの Settings > RS232 で設定します。

· バイナリモード(B) は、dCS での自動生産テスト中に装置を遠隔制御するために使用されます。

· テキストモード(T)は、コントロールアプリを搭載した Rossini DAC または RossiniPlayer で使用するモードです。 家庭用オートメーションシステムを使用する場合は、www.dcsltd.co.uk からリモコンコマンドのリストをダウンロードしてください。

- ピンのコネクション
- Pin 2　dCS ユニット伝送
- Pin 3　dCS ユニット受付
- Pin 5　グランド
- Shell　ケーブルスクリーン、ドレインワイヤー

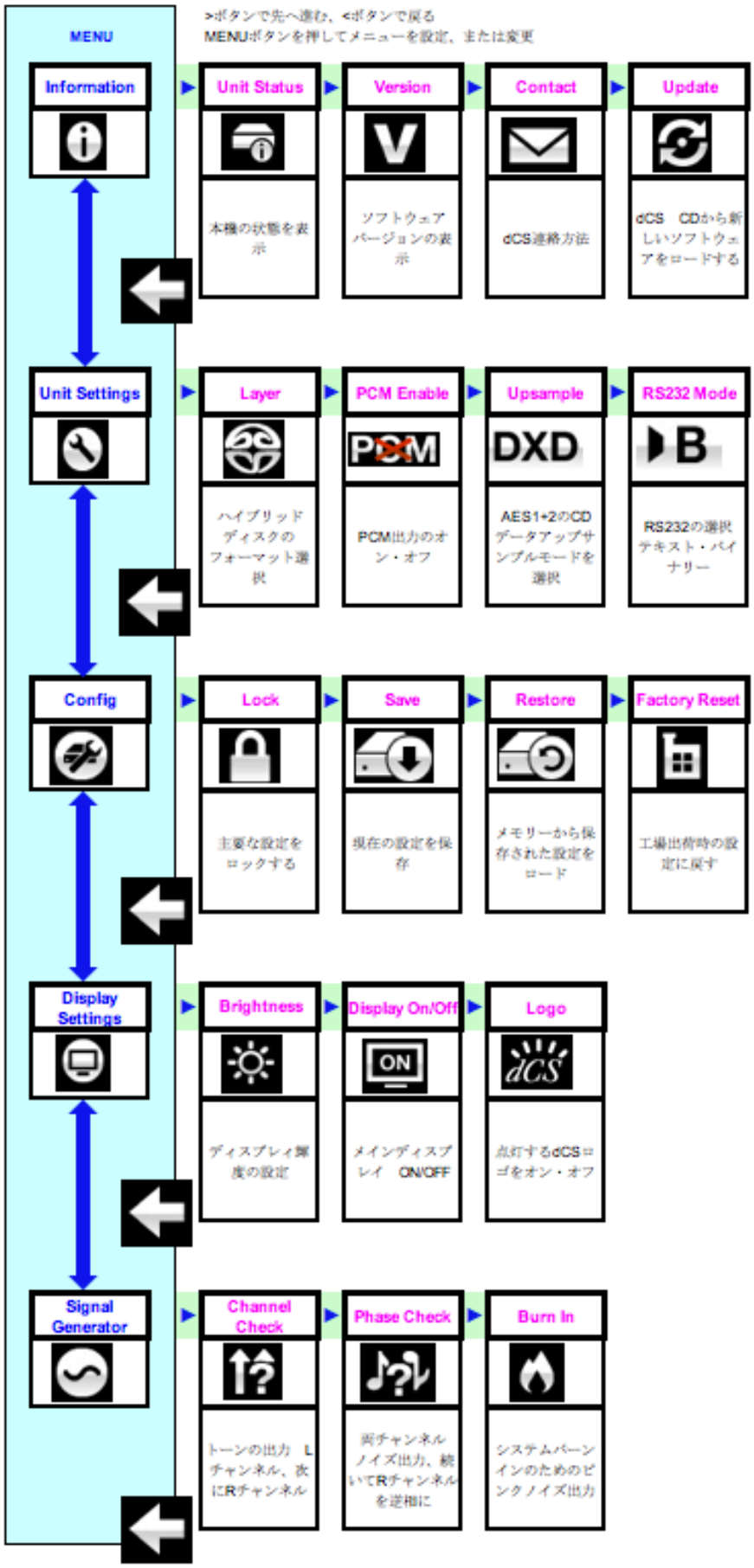
AC 入力

電源は標準の IEC320 コネクター(R) によって供給されます。保護フューズ(S) と二極電源スイッチ(T)が装備されています。

ラベル

ラベル(U) シリアル番号、電圧など。

メニュー


MENU
>ボタンで先へ進む、<ボタンで戻る
MENUボタンを押してメニューを設定、または変更
Information
Unit Status
本機の状態を表示
Version
ソフトウェアバージョンの表示
Contact
dCS連絡方法
Update
dCS CDから新しいソフトウェアをロードする
Unit Settings
Layer
ハイブリッドディスクのフォーマット選択
PCM Enable
PCM出力のオン・オフ
Upsample
DXD
AES1+2のCDデータアップサンプルモードを選択
RS232 Mode
RS232の選択テキスト・バイナリー
Config
Lock
主要な設定をロックする
Save
現在の設定を保存
Restore
メモリーから保存された設定をロード
Factory Reset
工場出荷時の設定に戻す
Display Settings
Brightness
ディスプレイ輝度の設定
Display On/Off
ON
メインディスプレイ ON/OFF
Logo
点灯するdCSロゴをオン・オフ
Signal Generator
Channel Check
トーンの出力 Lチャンネル、次にRチャンネル
Phase Check
両チャンネルノイズ出力、続いてRチャンネルを逆相に
Burn In
システムバーンインのためのピンクノイズ出力

メニューを使う

メニューは追加的なフィーチャーを使用するものです。また後日最新のソフトウェアをインストールするときにも使用します。

メニューは 4 つのボタンによって制御できます。

Menu ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択

► ボタンによってメニューのページめくり

◄ ボタンによってメニューのページ戻り。

POWER ボタンによってメニューを閉じる、または 10 秒でタイムアウト

必要なメニューはメニューガイドシートで見つけることが出来ます。

メニューページのトップには次のアイコンが用意されています。

INFORMATION 情報メニュー。セットアップの詳細、ソフトウェアバージョン、シリアル番号、通信先。

SETTING メニュー；ヴィヴァルディ各モデルにはそれぞれ異なった設定メニューを用意しています。フロントパネルからアクセスできないメニューもあります。

CONFIGURATION コンフィギュレーションメニューは重要な設定をロック、標準設定の保存、ユニットのリセットをする機能を持っています。

DISPLAY SETTINGS ディスプレイ調整メニュー

SIGNAL GENERATOR 信号発振。（トランスポート、DAC,アップサンプラーのみ）テスト信号とセット

アップチェック用

► ボタンによって必要なメニューのハイライトに進みます。そこで **Menu** ボタンを押すとそのメニューが選択出来ます。次のメニューのレベルダウンが表示されます。►によって必要なメニューページに進み、**Menu** ボタンによって情報、または設定変更が表示されます。

前のメニューレベルに戻すためのアイコン

INFORMATION　メニュー

Unit Status

Unit Status 使用機器の現状を表示

- ハードウェアのコードを含むフルシリアル番号。
- 内部温度(°C)
- それぞれのクロック入力で検知される周波数 (Hz)

◀ ▶ ボタンでスクロールします。このページはタイムアウトしません。退出するにはメニューボタン(Menu)を押します。

もしシステム操作がご希望と異なっている場合、ユニット状況ページが設定エラーや接続エラーなどを発見するのに役立ちます。

Version

Virsion ページ: ソフトウェアバージョンを表示。販売店などにお問い合わせの崔にはここからの情報をお伝え下さい。

Main: 1.xx

このページはタイムアウトしません。退出するには Menu (メニュー)ボタンを押します。

Contact

Contact ページ: dCS ホームページのコンタクトサイトと e-mail アドレス。このページはタイムアウトしません。退出するには Menu (メニュー)ボタンを押します。

お分かりになら無い点が出てきましたら、まずお買い求めの販売店にご連絡を。

Update

Update(アップデート)を使用すると、新しいソフトウェアをトランスポートに読み込むことができます。アップデートディスクに付属の説明書を慎重にお読みください。

誤ってアップデートを開始した場合でも、心配しないでください。本機は、更新されたソフトウェアを受信していないことを自動的に検出し、プロセスを中止します。 ソフトウェアは変更されません。

TRANSPORT 設定メニュー

Layer

ハイブリッドディスクが挿入されて、演奏されていない状態では、Layer (レイヤー)ページが SACD レイヤーかまたは、

CD レイヤーを選択することが出来ます。レイヤーを変更して再度読み取らせる場合は、Changing Layer - Please Wait と表示されます。

PCM Enable

このページは 16/44.1 AES3, SPDIF1 、SPDIF2 出力をオンにし…

…またはオフに。電気的には AES1+2 のみを使用している場合には、より静かな電機環境をもたらします。

もしまた PCM 出力を使用する場合には、PCM output をオンにすることをお忘れ無く。

Upsampling Mode

CD 演奏中、このページは, AES1+2 デュアル AES インターフェイス のフォーマットを DSD (1 bit at 2.822MS/s)に設定…

…または DXD (24 bits at 352.8kS/s)に…

…または DSDx2 (1 bit at 5.644MS/s、DoP format)

アップサンプリングオフ設定の必要はありません。16/44.1 のままでお聴きになる場合には、PCM フォーマット出力(AES3、SPDIF1 など)の一つをダイレクトに DAC と接続すれば良いのです。

RS232 Mode

サードパーティ製の制御システムで使用するためのRS232インターフェイスをテキスト(T) モードに設定するか、または...

…dcs production バイナリー(B)モード。工場での使用または Rossini・Player / DAC にリンクされている場合に使用します。

CONFIGURATION メニュー

Settings Lock

Locked（ロック）に設定すると、このアイコンが表示され、次の設定は変更できません。

- PCM Enable
- Upsample Mode
- Save Configuration は不可
- Restore Configuration は不可
- Factory Reset は不可

設定変更を行う時には Unlocked （ アンロック)にしてから行います。

Save Configuration

ユニットを設定したら、Save [保存]を選択して設定をメモリに保存します。 後で設定を変更したい場合は、もう一度 Save [保存]を選択して変更を保存します。

Restore Configuration

ユニットの設定を誤った場合は、以前に保存した設定をリロードするには Restore [復元]を選択します。

Factory Reset

Factory Reset 工場出荷時にリセット

- Layer to SACD (hybrid loaded)
- PCM Enable to On.
- Upsample Mode to DSD.
- Brightness to maximum.
- Display to On.
- Logo to On.
- RS232 Mode to Binary.

DISPLAY 設定メニュー

Brightness

Brightness ディスプレィ輝度設定。 ◀ ▶ボタンによる調整。
退出するには Menu メニューボタンを押します。

Display On/Off

T 通常このページはオン(On)に設定します。

Off(オフ)に設定しメニューを閉じた場合には、ディスプレィは消されます。コントロールの設定を変更した場合には、ディスプレィは一時的に点灯します。ユニットがロックされていない、ミュート、メニューが開いているときには、ディスプレィはオンになっています。

Logo On/Off

オン(On)に設定すると、he ***dCS*** ロゴがディスプレィの左側に点灯されます。

オフ(Off)に設定すると点灯しません。

GENERATOR メニュー

Channel Check

Channel Check チャンネルチェック: チャンネルが正しく接続されているかをチェックします。ディスプレィが左と表示している間は左チャンネルからのみ発信音が出力されます。後、右と表示され右チャンネルから発信音が出力されます。逆のチャンネルから発振音が聞こえた場合には接続がどこかで間違っていることが分かります

Phase Check

Phase Check 位相チェック: 位相が正相か逆送かをチェックします。In Phase(正相)と表示されている間は、両チャンネルとも正相でチェックトーンが出力されます。Menu (メニュー)ボタンを押すことによって、右チャンネルの位相が逆相となります。ディスプレィは Out of Phase (逆相)と表示します。せ位相の発信音は 2 つのスピーカーの中央に音が集まり、逆相の場合にはそうはなりません。Power(パワー)ボタンを軽く押してテストを終え、メニューに戻ります。

Burn In

Burn In バーンイン: システム全体のバーンイン。(間違った言い回しでエージングと同じ意味ですがここでは国際標準のバーンインとします)ディスプレィは Burn In Caution! Loud(バーンイン、音圧注意)と表示します。その後、ピンクノイズを発振し、ゆっくりと大きくなります。

Menu (メニュー)ボタンを押すか、または ◄ 、► ボタンによってこの動作を終えます。

ボリュームレベルが適切なレベルであるように設定してから操作して下さい。不用意に Burn In (バーンイン)を行ってアンプやスピーカーを損傷しても、dCS, 当社は保証いたしませんのでご了承下さい。

SPECIFICATION

メカニズムタイプ	デュアルレーザー CD/SACD メカニズム
デジタル出力	デュアル AES インターフェイス： 2x 3-ピン M XLR コネクター(**AES1+2**). SACD 演奏時には、このインターフェイスは暗号化された DSD データを出力。CD 演奏時には Settings > Upsample Mode メニューページで設定し、出力は暗号化された DSD データ (1 bit ,2.822MS/s) または DXD データ(24 bits at 352.8kS/s) または DSDx2 データ (1 bit ,5.644MS/s DoP)を出力。
	AES インターフェイス： 3-ピン M XLR コネクター (**AES3**), SACD、CD 演奏時には 16/44.1 データを出力。
	SPDIF： 1x RCA 、1x BNC コネクター。CD,SACD 演奏時には、それぞれ 16/44.1 データを出力。
クロッキング	ワードクロック出力： 1x BNC コネクター。マスターモードに設定の場合、内部クリスタルオシレータによる TTL 44.1kHz ワードクロックを出力可能。出荷時の精度は+/-10ppm(温度補正無し) 通常数年は精度を保持。
	ワードクロック入力： 1x BNC コネクター、 44.1, 88.2 または 176.4kHz クロック信号を受け容れる。 TTL レベル。Lock range is +/-300ppm.
サイズ、重量	444mm (W) x 435mm (D) x 178mm (H) 設置に際しては、ケーブルコネクター、空気循環空間を確保すること。 20.6kg
電源	100V AC, 50/60Hz. 消費電力: 16W 最大消費電力 50W フロントパネルでパワーダウン時：0.5W

このスペックは製品改良のため、予告なく変更することがあります。

保守、サポート

dCS機器は通常、毎日の保守は必要在りません。また、ユーザーが内部を開けて修理、保守を可能にするような設計ではありませんので、何らかの問題が発生した場合には、当社にご連絡をお願いいたします。

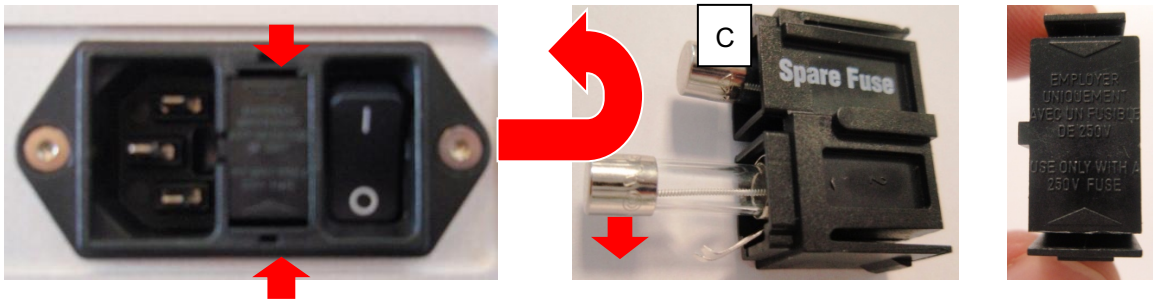
TAC フューズ交換

パワー入力アセンブリーにあるフューズ交換です。このフューズが溶けた場合には、ユーザーによって交換は出来ます。ユニットの消費電力は低いので、パワーサージまたはユニットの状態によってフューズが断線します。通常はパワーサージではユニットに損傷は起こりません。しかし、フューズが何回も断線するようであれば、ユニットが故障した考えられますので、当社にお送りいただき、修理をご用命ください。

フューズタイプ：20×5mm　T　1アンペア　L フューズ

フューズが飛んだ場合には同じ容量の、同じタイプのフューズに交換することが重要。容量の大きなフューズに置き換えた場合には、ユニットを損傷することもあり得ます。また、火災、感電の原因になるかもしれません。その場合には保証はされませんので、ご注意下さい。ユニットが正常であれば、フューズの断線はごく希なケースです。

下の図を参照して、電源ケーブルを取り外し、爪を使ってヒューズホルダー(A)の 2 つのタブを引っ張り、それらを一緒に押してクリップを解放し、ヒューズホルダーを引き出します。 吹き飛ばしたヒューズを下側の位置(B)から引き出して廃棄します。 スペアヒューズ(C)を下の位置に移動するか、マニュアルパックのヒューズのいずれかに適合させてください。 図(D)のようにヒューズホルダーの向きを決め、ホルダーを電源インレットに押し込み、カチッと音がするようにします。



A　　B　　D

Cleaning the case

dCS ユニットの前面パネルと背面パネルは、航空機グレードのハードアルミニウムを切削加工したものです。原材料から完成品まで、エンジニアリングプロセス全体を通してアルミニウムの仕上げを作成するために細心の注意が払われています。

ケースからほこりや指紋を取り除くには、清潔で乾燥した糸くずの出ない布を使用することをお勧めします。

仕上げを元に戻すには、少量のラノリン系クリーナーを清潔で乾燥した糸くずの出ない布で拭き取り、拭き取ることをおすすめします。 ラノリンがボタンの周りに集まるのを許さないでください。

アンモニアを含む少量のガラスクリーナーを使用して他の表面を清掃することができますが、コネクタの接触部にはスプレーしないでください。

Software History

dCS 製品は、ソフトウェアアップデートが可能なチップ（FPGA と DSP）を幅広く利用しています。 これにより、当社の製品をアップデートして追加機能を追加したり、デジタルインタフェースの標準を更新したり、新しいソフトウェアをロードしてパフォーマンスを向上させることができます。 場合によっては、電子機器の「能力」をアップしたり、コネクタやフロントパネルコントロールを追加するために、ハードウェアのアップグレードが必要な場合もあります。

すべてのソフトウェアアップデートが聴覚的改善をもたらすとは限りませんが、私たちはソフトウェアを最新の状態に保つことをお勧めします。 最新のソフトウェアアップデートの最新情報については、dCS または、当社のウェブサイトで時々確認してください。

アップデートディスクは輸入代理店である当社から入手できます。 アップデートディスクをオーダーする前に、Info> Version メニューページを開き、メインバージョンをチェックして、アップデートが実際に必要であることを確認してください。

アップデートディスクは輸入代理店である当社から入手できます。 アップデートディスクをオーダーする前に、**Info > Version** メニューページを開き、**Main**（メイン）バージョンをチェックして、アップデートが実際に必要であることを確認してください。

このマニュアルは Rossini Transport ソフトウェアバージョン 1.0x 用です。

Issue 1.00	The first issue.